

川上ダムの見直しに反対する意見

平成15年1月17日、於：京都新都ホテル、淀川水系流域委員会

○川上ダム建設中の三重県青山町から参りました町議会議員の岡島孝生です。

私は先程淀川水系流域委員会から示された提言案やこれまでの新聞報道によるダム建設は原則中止といった報道には全く不満であり、反対意見を述べたいと思います。

●川上ダムの必要性は言う迄もなく治水と利水にあります。

まず治水であります。ご承知のとおり上野市の西北部で青山町から流れてた木津川本流と服部川それに柘植川の3川が合流して西へ流れ淀川となって行く訳ですが、この合流地点の直ぐ西側に岩倉峡という峡谷があって洪水の時にはそこで水が堰止められ逆流し、上野市の長田、小田、新居などの地区に水が溢れ、これまでに幾度となく大被害を出して来ました。

戦後最大の湛水面積は540haであります。堤防を築くなどその対策は取られておりますが、現在も洪水による湛水の被害は結局防ぎ様がなく困っております。水の頭はいかに小さいかという事です。抜本的な対策として川上ダムの建設はどうしても必要であります。これが現実であります。

●次に利水の面であります。毎秒1.11トンの水道水を名張市を除く伊賀6市町村と奈良県それに西宮市がそれぞれ利用する事になっておりますが、伊賀6市町村では数年前から伊賀広域水道の水道管敷設工事を進めており、川上ダムの完成を待っております。また、伊賀6市町村では少しでも木津川の水を奇麗にしようと、いま合併浄化槽の普及にも力を入れており、生活用水の需要が急に高まって来ております。従って川上ダムの建設は治水や利水の面だけではなく、環境の面からも非常に重要であります。

●川上ダムの建設費は850億円、その関連道路の付け変えなど周辺整備事業費は213億円、併せて総事業費1千63億円ですが、現在までにその凡そ半分の542億円が既に使われて来ております。淀川水系流域委員会の皆さんは環境の面を中心にダム建設の見直しを主張されている様ですが、川上ダムの建設は35年前から計画され、これまで幾多の困難を乗り越え現在に至っている訳であります。僅か2年前に発足したこの淀川水系流域委員会の提言は、私から見ると環境に偏り過ぎた1方的な意見だと思います。この提言を尊重し、川上ダムの見直しをされては我々地元伊賀地方の住民としては全くたまったものではありません。この提言に真っ向から反対致します。

●川上ダム周辺整備事業は青山町と三重県が中心となり、議会の議決を経てすべて事業が進められております。この事業は淀川水系流域委員会の様な1つの諮問委員会の提言により、もしも覆されるような事になるならば、一体わが国の議会制民主主義の制度がどうなるのだろうかと疑問が沸いて参ります。断じてこうした事があってはならないと思います。

●最後に国土交通省近畿地方整備局に対し川上ダム建設の1日も早い完成を願う地元住民の思いをぜひ実現して頂きますよう強く要望して私の意見を終わります。